

地方自治体における地域特性に対応した 移住・定住政策の特徴と課題

201011262 内山 周子

都市計画専攻 指導教員：山本 幸子 助教

1. 目的

人口減少社会において、過疎化や中心市街地の空洞化への対策として移住・定住政策に取り組む自治体が全国的に増えているが、抜本的な問題改善に至っている自治体は極々少数にとどまっている。その原因として政策の内容が全国的に画一的で、移住希望者が移住先を決定する要因になっていないことが挙げられる。

移住・定住政策を扱った研究には、特定の自治体の定住政策を対象に移住者へのアンケートから評価した研究^[1]や、特定の分野の政策に関して複数の自治体を比較分析している研究^[2]、転入者を含む在住者と出身者に聞き取り調査を行い定住政策の評価と移住・定住意識を明らかにした研究^[3]など多様な分野の研究者によって研究が行われている。

しかし、自治体の地理的・社会的特性に着目して全国の移住・定住政策について取り扱った研究はなく、これらの関連は明らかにされていない。

そこで本研究では、自治体が、移住希望者が定住するまでの「関心を持つ」、「実際に訪問する」、「地域に慣れる」、「移住する」、「定住する」の5つのステップの移行に対して、効率的且つ効果的な支援を行い、地域の魅力やオリジナリティを活かした政策を行うために、自治体の地域特性を分析し、政策との関連を明らかにすることによって、自治体の地域特性に対応した移住・定住政策の特徴と課題を導くことを目的とする。

2. 方法

2.1 対象自治体の選定・類型化

まず、対象自治体の選定を行う。移住・定住政策を人口減少問題への対策ととらえ、まずは人口減少の顕著な地域を都道府県単位で選定する。選定には、転入超過率、過疎市町村割合、人口増加率の3つの指標で下位20に一つでも含まれる25県を選定した。この際、北海道は地域特性が人口規模の小さい豪雪地域に偏り、本研究の分析の特性上ふさわしくないため、今回は対象から除外した。25県のうち移住・定住政策のデータベースを有する「国土交通省 地方振興 ふるさとsearch」^[4]、「ニッポン移住・交流ナビ JOIN」^[5]に登録のある289市町村を抽出し、その中から政策の効果が現れていると考えられる自治体を選出する。次に、移住・定住政策の評価は困難であるが、本研究では政策の効果が現れると転入超過率が上昇するという仮定のもと、転入超過率が上昇傾向にある20県73自治体を選出した。

選定した73市町村を人口規模と、「①全域離島」、「②全域豪雪地域」、「③全域過疎地域」、「④いずれかの特性が一部の

み指定」、「⑤指定なし」の5つの地理特性によって以下の5つに分類する。

A1：人口特大・地理有利（人口：10万人～、地理④⑤）

A2：人口大・地理有利（人口：3万～10万、地理④⑤）

B：人口小・地理有利（人口：～3万人、地理④⑤）

C：人口大・地理不利（人口：3万人～、地理①②③）

D：人口小・地理不利（人口：～3万人、地理①②③）

2.2 研究の方法

1) 5つの類型毎の特徴を、「国勢調査」^[6]、「総務省 地方公共団体の主要財政指標一覧」^[8]、「住民基本台帳人口移動報告」^[7]をもとに分析する。2) 73自治体に対してアンケート調査を行い、実際に行われている移住・定住政策の内容を明らかにする。3) 1), 2)の分析をもとに、今後の移住・定住政策を考える上で参考になると考えられる6事例についてヒアリング調査を行い、詳細な事例分析を行う。

3. 結果

3.1 類型の特徴分析より

同程度の人口規模であっても「高齢化」、「財政力」は地理的な条件が不利な自治体ほど、より深刻な状況であることが示された。

多くの自治体で移住・定住政策を開始した2000年代の転入超過率の推移から、全体を通してほとんどの自治体が転入超過であり、転入超過の自治体は地理特性が有利な地域にごく少数見られただけであった。

2000年から2012年の統計をもとに移住・定住政策の開始前後の転入超過率の変化(図1)をみると、必ずしも転入超過率は上昇せず、「B：人口小・地理有利」の類型でのみ一貫して転入超過率の上昇がみられた。

3.2 アンケート調査より

45/73件の回答のうち67%の自治体では政策のターゲットを定めていないものの、「B：人口小・地理有利」の自治体では子育て世帯や若者にターゲットを定めた政策を行い、転入超過率を上昇させていた。

全国的に「住宅政策」や「子育て支援」の取組は進んでいる一方で、「滞在・体験」と「地域への適応支援」の取組はあまり行われていないことが示された(図2)。

人口規模の小さい類型では取組の内容に特色がみられ、特定の政策分野において他の類型より多くの取組を行っていることが示された。

政策の注力度では、類型による特色はほとんど見られず、全国的に「情報提供・相談」、「子育て支援・住宅政策」の二つの組み合わせに集中することが見て取れた。

アンケートの自由記述の分析から、地理的な条件が不利な自治体では「若者の人口流出」が多くの自治体で問題として捉えられていること、また、全体を通して、他自治体との差異化や地域ブランドの創出に苦慮していることが示された。

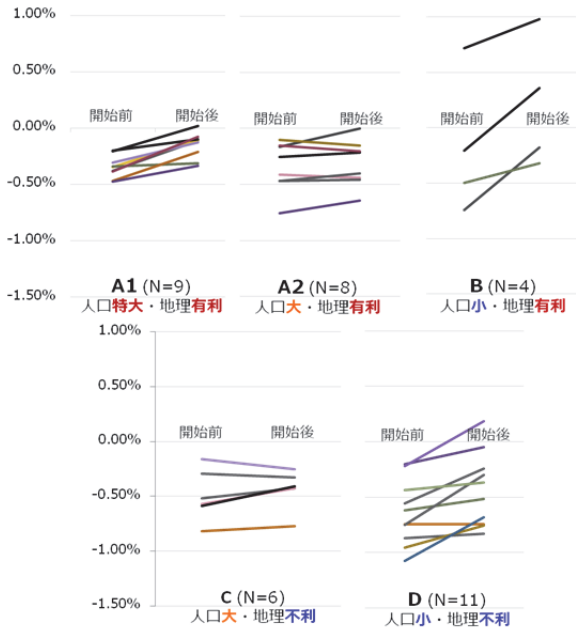


図1 政策開始前後の転入超過率の変化^[7]

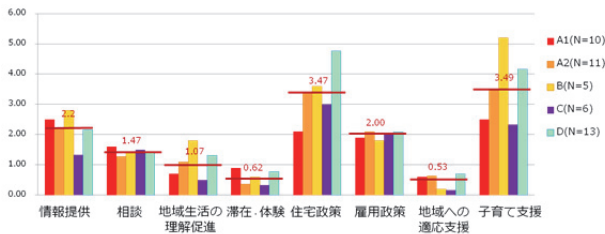


図2 分野別政策取組数

3.3 詳細事例分析より

転入超過率が上昇している自治体では、転入者の属性に特色が見られた。

「滞在・体験」など、行政の取組で足りないものは、他の主体で補っている例(図3)もあることが示された。

多くの自治体では政策担当者が地域の魅力を客観的に理解していない現状がみられたが、自治体が地域産業の魅力を理解し、活かすことで特定の若者を取込むことができる事例も存在した。

	STEP1 関心を持つ	STEP2 実域に訪問	STEP3 地域に慣れる		
必要な支援	情報提供	相談	体験	滞在	地域生活の理解促進
取組	・SNSの活用 ・回帰フェア	・定住促進専門の課に対応	・イーラの田舎暮らし体験	・リサーチ住宅(1~6カ月)	・ネットで配信 ・担当者が案内
主体	行政	行政	NPO	行政	行政
	STEP4 移住する		STEP5 定住する		
必要な支援	住宅政策	雇用政策	地域への適応支援	子育て支援	
取組	・住情報提供ネットワーク	・就業支援(法人で研修)	・行政が自治会に紹介	・高3まで医療費無料等	
主体	行政	地域営農法人	行政	行政	
	宅建協会				

図3 飯島町の移住・定住支援の取組とその主体^{[9][10]}

4. 考察

移住・定住政策のターゲットを定め、そのターゲットが必要としている支援的を絞ることによって、効率的且つ効果的な支援を行うことができる。

全ての支援を行政が行う必要はなく、民間との連携で行う支援や、観光や不動産業といった既存の資源で賄うことができる支援もある。

自治体の魅力は自治体内の声のみで検証するのではなく自治体外部や、移住者の声をもとに客観的な評価が必要であり、それによって明らかになった魅力を最大限活用することで転入者を取込むことができると考える。

5. 研究の課題

本研究では対象自治体の選定に当たって比較的移住・定住政策の効果が期待できる自治体に対象を絞ったため、アンケートからは統計的な優位性を必ずしも示すことができなかった。また、今後は転入超過率の上昇に繋がっていない政策についても比較、検討を進めていく必要があると考える。

詳細事例分析において自治体の政策担当者から詳細な事情について聞くことができた一方で、移住者側からの政策評価はできていない。これらの点は今後の研究課題としたい。

参考文献

- [1] 垂水亜紀, 藤原三夫, 泉英二(2000): 徳島県山城市における定住促進政策の展開と成果: 林業経済研究 Vol. 46 No. 1 (2000), 57-62
- [2] 米山隆晃, 川島和彦(2013): 地方都市におけるまちなか居住推進のための空き家情報提供制度に関する研究-運用実態の分析を中心として-: 都市住宅学 第80号, 86~92
- [3] 金田俊輔, 山口忠志, 斎尾直子(2009): 自治体のUJIターン支援施策の評価と出身者の移住・定住意識に関する研究-農山村地域における地域住民・出身者の居住歴から見た意識分析(その1)-: 日本建築学会大会学術講演梗概集(2009), 503-509
- [4] 国土交通省 地方振興:ふるさとsearch http://www.mlit.go.jp/kokudoseisaku/chisei/crd_chi_sei_tk_000037.html (2013. 11. 13 最終閲覧)
- [5] ニッポン移住・交流ナビ JOIN <http://www.iju-join.jp/participate/> (2013. 11. 13 最終閲覧)
- [6] 統計局ホームページ 国勢調査 <http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2010/> (2013. 11. 13 最終閲覧)
- [7] 住民基本台帳人口移動報告(H22~24)
- [8] 総務省 地方公共団体の主要財政指標一覧
- [9] 飯島町公式ホームページ <http://www.town.iijima.lg.jp/> (2014. 1. 27 最終閲覧)
- [10] 信州伊那里泊覧会イーラ <http://iila.jp/> (2014. 1. 27 最終閲覧)